

# 地域環境学ネットワークの形成を通じた 科学者コミュニティの変容」グループ

グループリーダー 佐藤 哲

## 研究開発の実施項目

- a. 地域環境学ネットワーク形成とステークホルダーと科学者の協働のガイドライン策定
- b. 問題解決型研究の評価システム構築
- c. 地域環境学ネットワークの拡大と深化による科学者の変容

## コアメンバー

佐藤哲・松田裕之・高橋大輔・博士号取得研究員・鎌田磨人・家中茂

兼任メンバー：参加者全員

# 地域環境学ネットワーク形成とステークホルダーと科学者の協働のガイドライン策定

- 「レジデント型研究機関を中心とした科学者の変容の実態把握」グループと「ステークホルダーと科学者の相互作用と協働の実態把握」グループの成果を基盤に、地域環境問題の解決に貢献するステークホルダーと科学者の協働のあり方を検討する
- レジデント型研究機関とステークホルダー、訪問型研究者、市民調査の実施主体、地域企業や行政内部の研究者などによる「地域環境学ネットワーク」を形成する
- 地域環境問題の解決への取り組みにおけるステークホルダーと科学者の協働のガイドラインを策定する

# 問題解決型研究の評価システム構築

- ステークホルダーと科学者の協働のガイドラインを整備しつつ、それを基盤として地域環境問題の現場における問題解決型研究の評価システムを試行する
- ガイドラインを評価軸として、「学びあい、育てあう」相互評価のありかた、ステークホルダーによる審査のありかた、問題解決の実効性の評価手法、評価結果の公表とフィードバックの手法などを検討する
- 多様な手法による重層的な評価システムを地域環境学ネットワークにおいて試行・改善し、科学者コミュニティに広く受け入れられる評価システムとして成熟させる

# 地域環境学ネットワークの拡大と深化による 科学者の変容

- 各地の潜在的なレジデント型研究機関との協働体制を構築し、研究会やシンポジウム、ウェブページによる情報の共有などを通じて、地域環境学ネットワークの理念の浸透をはかる
- 多様な個別の環境問題にかかわる既存ネットワークとの連携を通じて広範な領域・地域をカバーする
- 短期滞在研究の試行、市民調査の実施主体やステークホルダーの相互交流などを通じて、地域環境学ネットワークを拡大・深化させる
- 研究評価システムが科学者コミュニティによって受け入れられることによって、科学者コミュニティの総体としての問題解決型への変容を促す

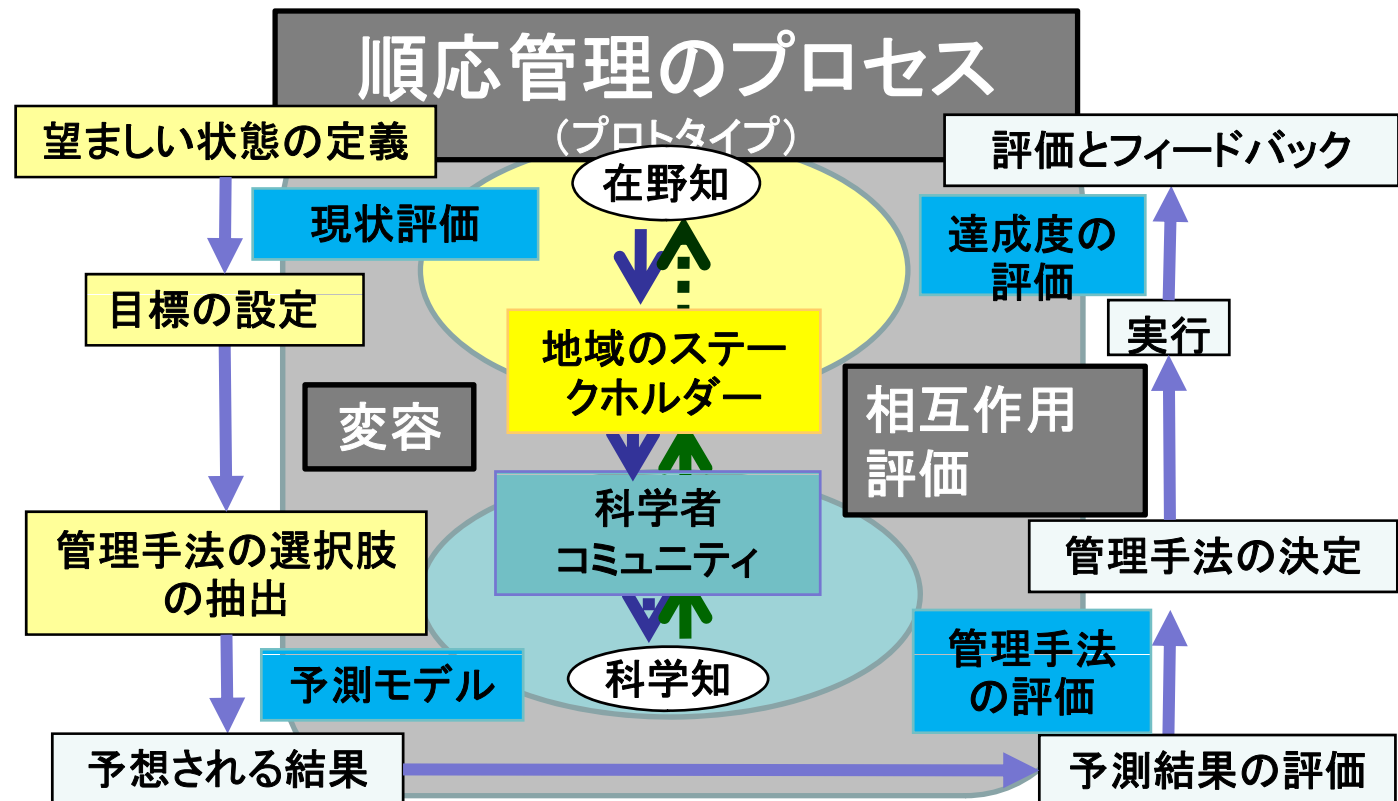
# 地域環境学ネットワークにおける協働のガイドラインと評価システム

## ● 協働のガイドライン

- ・ 順応管理のプロセスの一般化  
(順応管理におけるステークホルダーと科学者の協働)
- ・ 協働のガイドラインの策定  
(問題解決型の知識生産が持続するための生産的な協働のありかた)

## ● 評価システム

- ・ ステークホルダー参加型の研究評価(順応管理のプロセス中の評価)
- ・ ガイドラインに基づく協働の評価(生産的な協働の評価)



# 協働のガイドラインと評価システムの留意点

## (現時点でのアイデア)

### ①協働のガイドラインにおける留意点

科学者とステークホルダーの協働のガイドラインを策定する

- ・順応管理とリスク管理のための科学的基盤の確立
- ・地域環境の長期的なモニタリング体制の確立
- ・地域固有の問題構造・伝統文化・意思決定システムなどとの整合性
- ・ステークホルダーとの協働による研究体制と科学的知識の共有
- ・研究成果の問題解決に向けた有効性の検証システム

### ②評価システムの設計における留意点

地域社会に実装された順応管理システム、従来の科学評価になじまない継続的なモニタリングなど、従来型の学術論文や評論などを評価対象とする

- ・問題解決の実効性の評価手法(顕彰制度、認証制度など)
- ・地域環境学ネットワークへの参加要件
- ・ウェブなどを活用した相互評価システム
- ・ウェブジャーナルなどにおけるステークホルダー参加型査読
- ・評価結果の公表とフィードバックの手法

# 問題解決に直結した研究評価の実例 (1)

2007年度「日経地球環境技術賞」  
兵庫県立大学と兵庫県立コウノトリの郷公園

「**広範な科学的知識や技術を駆使したコウノトリの野生復帰の取組み**」を通じて「**人とコウノトリが共生できるよう、農薬を抑えた農法の普及や魚道の整備等地域ぐるみで生息環境を整えた**」

<http://www.city.toyooka.lg.jp/www/contents/1193387870211/index.html>



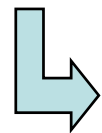
「**活動の(普遍性をもつ)科学的基盤**」に対する評価  
「**地域ぐるみ**」の活動を通じて固有の問題解決に貢献

# 問題解決に直結した研究評価の実例 (2)

## 知床世界遺産のIUCN調査報告書

「調査団は地域コミュニティや関係者の参画を通じたボトムアップアプローチによる管理、科学委員会や個々の（具体的目的に沿った）ワーキンググループの設置を通して、科学的知識を遺産管理に効果的に応用していることを賞賛する。これらは、他の世界自然遺産地域の管理のための素晴らしいモデルを提示している。」

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/hozen/080605.html>



「知床世界遺産の管理」という個別的課題に対する貢献  
「他の世界遺産の管理のためのモデル」という普遍性